



沖縄国際大学 FD通信

発行者：沖縄国際大学 教務部長（2010年11月15日）

「コンフリクト —対立や葛藤—」と上手に付き合うコツは？ —Q-Links 主催の OD プロジェクトに参加しました—

「OD プロジェクト」の「OD」とは、「Organizational Development」の略称で、組織開発など、組織の潜在的な活力を引き出すための理論や手法を指しています。今回のプロジェクトでは、組織再編などの「形」に注目するのではなく、組織づくりにおいて直面する「場面」に焦点が当てられました。

プロジェクト参加者は、5つのグループに分かれ、今回のテーマである「大学におけるコンフリクト—対立と葛藤—」に関するケーススタディ作成を教職協働で行いました。

このプロジェクトは7月から9月の3ヶ月の間に、STEP 1～STEP 3の計3回行われ、本学からは、藤波潔（総合文化学部）、呉屋賢剛（総務課）、坂名城政弘（教学課）の3名が参加しました。

それぞれのSTEPで行われた内容は、次のとおりです。

STEP1：コンフリクトを知り尽くす（7月22日）

大学における対立や葛藤をテーマに話題提供

木下富雄氏（京都大学・名誉教授）—葛藤とどう向き合うか—

山崎その氏（京都外国語大学・学長事務室長）—これで本当に大丈夫なのだろうか—

STEP2：コンフリクトを語り尽くす（7月23日）

大学における対立や葛藤のエピソードを語り合う。

ケーススタディ作成に向けたアイデアを探る。

「Q-pantry」（Web 掲示板）でのダイアログ（7月末から9月上旬）

STEP3のピアレビューに向けて、参加者が、自由に意見を交わし、相互のやりとりができる交流の「場」。

STEP3：コンフリクトを味わい尽くす（9月9日）

実際にケーススタディ教材に取り組み、その後のピアレビューを通じて、各グループで振り返り、教材の質を高めるためのフィードバックを行う。

STEP3を経て、各グループの教材はブラッシュアップされ、今後、Q-Linksメンバーシップにおける活用が期待されています。こういったケーススタディになったのか。内容を知りたい方は、教学課(aafchr@okiu.ac.jp)までお問合せ下さい。

なお、本学教職員が関わったケーススタディのタイトルは次のとおりです。

- ・ネガティブなコンフリクトをポジティブなコンフリクトへ変える魔法とは？
- ・学生に対する上司と部下の考えの違い
- ・象牙タワー ～教育と研究と、時々！？、雑務～

参加したメンバー間で、ケーススタディを活用した何かを考え中です。



！何かをつくるためには、「コンフリクトを活用し、楽しむ♪」くらいの気持ちが必要です！

